

## 英国で New Year を！ New Year's Revolution

実は、私は、New Year がずっと好きではありませんでした。クリスマスの後に再度、何を祝うの？と、New Year の意味を見出すことができなかつたのです。また、私にとってカウントダウンは、ワクワクするというよりはむしろ、不吉に感じられました。私の出身は、New Year を 'Hogmanay' と呼び、大切にすスコットランドなので、この私の告白は恥ずべきものですが……。

私が New Year に偏見を持つのは、スコットランド生まれながら、イングランドで育つたことに関係があるかもしれません。イングランドでは、スクールホリデーがクリスマスの 2 週間前から始まり、クリスマス当日への興奮を最高潮にします。スコットランドに引っ越したときに、12 月 23 日まで授業があるというスコットランドのスクールシステムを知り呆然としました。貴重なクリスマスを奪い取られたような。

この恨みから、私は、New Year 版「クリスマス・キャロル」のスクルージに。真夜中の 12 時に教会の鐘を聞こうと屋外に集まる酔っ払いのように、ミンスパイとシェリーと一緒に楽しんだり、腕を組んで詩や Auld Lang Syne (蛍の光) を歌うといったスコットランドの神秘的な Hogmanay の儀式参加することを拒むようになりました。気乗りがしなかつたので。

そのかわり、家で New Year とは全く関係のないヴェルナー・ヘルツォーク (Werner Herzog) の映画や野生動物のドキュメンタリーなどのテレビ番組を見ながら過ごしたものです。

しかし、年月が過ぎるにつれて、私も New Year 嫌いを考え直すようになりました。年のせいかもしれませんが、日本の神聖さを体験したせいかもしれませんが、New Year を、クリスマスからプレゼントを省いた新鮮味のない行事ではなく、意味のある祝日と感じ、少なくとも心のこもった握手をする価値のあるものと考えようになりました。

最近の New Year ですが、伝統的な色合いがやや薄れ、大掛かりで、より楽しめるものが増えてきました。昔ながらのイルミネーションや花火、アイススケート場、クラブナイトはもちろんありますが、スケールが大きくなっています。

昨年は、ロンドン・アイ (London Eye) の New Year's Eve の花火が 70 万人もの人々を魅了しました。今年はさらに規模が大きくなるようです。スコットランドでは、エジンバラの Ne'er Day street パーティーの規模が年々拡大し、30 万人の人出が見込まれています。英国の冬の風物詩パントマイム (宝塚歌劇団の英国版?) でさえ、モダンで洗練された舞台や人気役者でイメージチェンジをしています。(もともとは子ども向けでしたが、最近では大人向けのものも。)

このように、英国の New Year は、私のような楽しみに水をさすような人にとっても、楽しめるものになっています。英国にいらつしやる機会があれば、聖歌の点火の行列や楽しい集いなど今流行の行事に参加されることをお勧めします。

年明けの心なごむ楽しい余韻や、ほろ酔い加減の楽天的な雰囲気なかで、新しい友達もできるかもしれません。できなかつたとしても、英国での New Year の楽しい思い出を、記憶に残るお土産として持ち帰ることができるでしょう。

とはいっても私はクリスマスのほうがいいかな……。

### 参考情報

<http://www.viewlondon.co.uk/whatson/london-eye-new-years-eve-fireworks-feature-1564.html>  
<http://www.edinburghshogmanay.com/>